

## 第2章 中央市の概況

### 1. 中央市の位置及び地勢

本市は、山梨県の中央部に位置しています。釜無川により形成された沖積平野の地域と御坂山系からなる山間地域の、地理的特性を有する二つの地域があり、両地域は笛吹川によって隔てられています。沖積平野地域は田富、玉穂の2地区が笛吹川と釜無川に挟まれた形で位置しており、山間地域は豊富地区となっています。

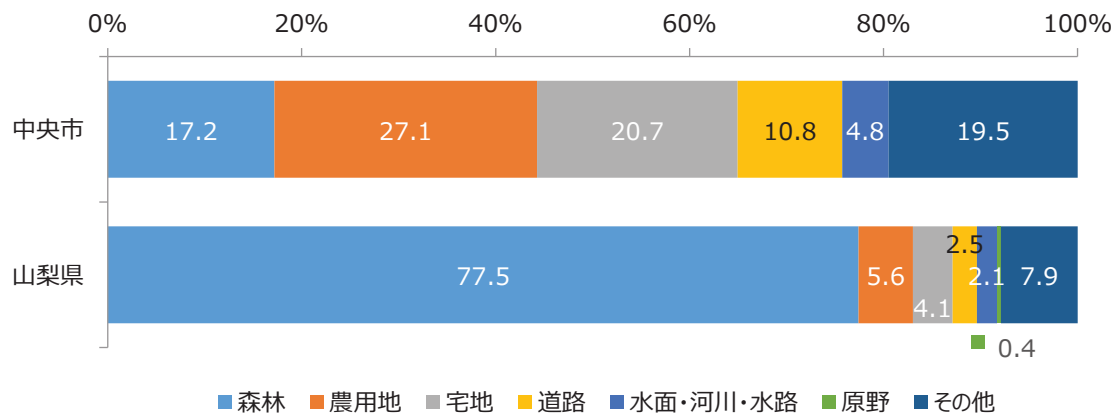
市の面積は、玉穂地区、田富地区、豊富地区を合わせて合計 31.69 k m<sup>2</sup>となります。



中央市位置図

## 2. 土地利用

本市の土地利用をみると、平成 22 年現在、農用地が 27.1%、ついで宅地が 20.7%、森林が 17.2%、その他（レクリエーション施設等）が 19.5%であり、山梨県全体と比較すると、森林の割合は著しく低く、農用地、宅地の占める割合が高くなっており、居住や産業に利活用されている平坦地が多いことが本市の特徴となっています。総面積に対する可住地面積の割合は 82.65%と県内全自治体で第 2 位となっています。



出典：平成 22 年土地利用現状調査

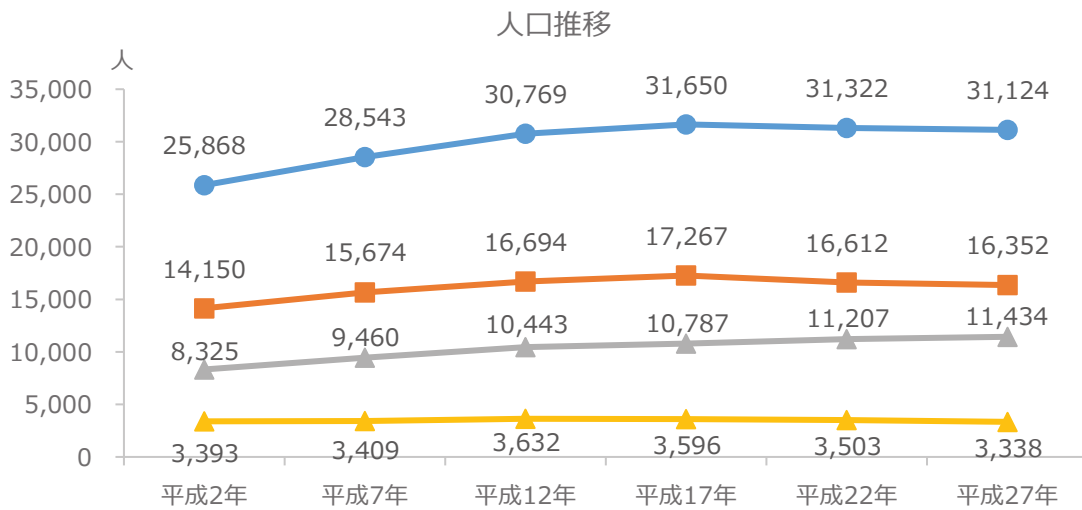
※本計画書において、各項目の構成比は小数点第二位を四捨五入しているため、各項目の合計が 100%にならない場合があります。

## 3. 社会的な特徴

### (1) 人口動態

本市の人口は、昭和 40 年代に入り、甲府市中心部に近く交通の利便性が高いこともあって、田富・玉穂地区で住宅用地の開発が相次いで始まり、甲府のベッドタウンとして急速に拡大しました。しかしながら、平成 17 年（2005 年）の 31,650 人をピークに減少に転じ、減少傾向が続き、平成 27 年 10 月 1 日現在、本市の総人口は 31,124 人（国勢調査）となっています。

3 地区別でみると、豊富地区の人口は平成 12 年をピークとして、田富地区では平成 17 年をピークとして減少しているに対し、玉穂地区では微増となっています。

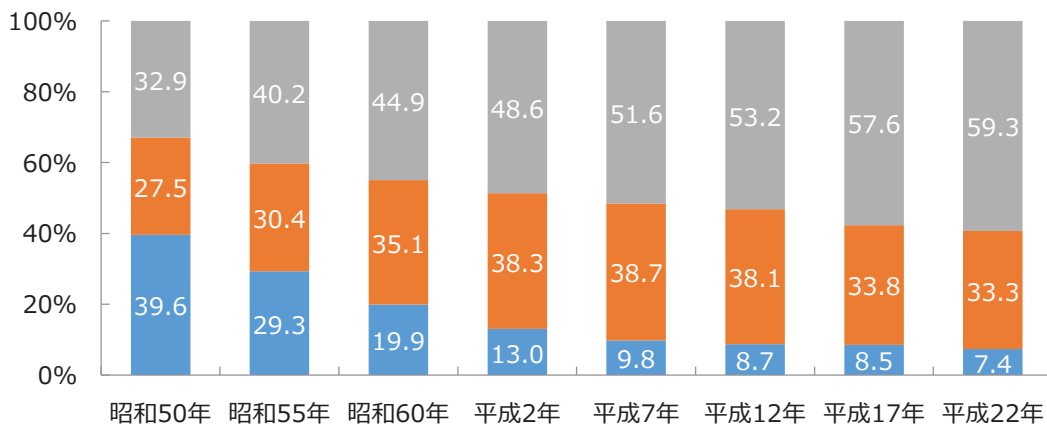


出典：国勢調査

● 中央市 ■ 田富地区 ▲ 玉穂地区 ▲ 豊富地区

## (2) 産業別就業人口

本市の産業別就業人口の構成比の推移をみると、第3次産業が増加する一方で第1次産業は減少傾向にあります。また、第2次産業は平成7年までは増加しましたが、その後は減少に転じています。なお、平成22年の県全体の構成比をみると、第1次産業7.4%、第2次産業29.1%、第3次産業63.5%であり、本市では第2次産業が4.2ポイント高く、第3次産業が4.2ポイント低くなっていることが特徴的です。



出典：国勢調査

■ 第1次産業 ■ 第2次産業 ■ 第3次産業

### (3) 事業所等の推移

事業所数は平成 21 年から減少し、平成 24 年から増加しています。しかし、平成 26 年の事業所数は 1,436 と平成 21 年 (1,489) から 3.6%減少しています。

平成 21 年と平成 26 年の間、緩やかな減少傾向の中、医療・福祉、教育・学習支援などが増加していることから、人口減少や少子高齢化の影響がうかがえます。

#### ○中央市事業所数の推移

	平成 21 年 統計値/2009	平成 22 年 推計値/2010	平成 23 年 推計値/2011	平成 24 年 統計値/2012	平成 25 年 推計値/2013	平成 26 年 統計値/2014
農林漁業	9	8	8	7	10	13
鉱業	1	1	1	1	1	0
建設業	152	148	145	141	135	129
製造業	125	120	115	110	115	119
電気ガス熱供給水道業	0	0	0	0	1	2
情報通信業	12	11	10	9	9	8
運輸業	63	63	63	63	61	58
卸売・小売業	420	407	394	381	383	385
金融・保険業	16	17	17	18	18	17
不動産業	157	153	149	145	147	149
学術研究、専門・技術サービス業	37	38	39	40	41	42
飲食店・宿泊業	153	150	146	143	140	137
生活関連サービス業、娯楽業	121	119	117	115	116	117
医療・福祉	71	70	69	68	82	95
教育・学習支援業	39	39	39	39	46	52
複合サービス事業	11	11	10	10	12	13
その他サービス業	102	100	97	95	98	100
事業所合計	1,489	1,454	1,420	1,385	1,411	1,436

出典：経済センサス（H21、H24、H26 は統計値、その他の年度は推計値である）

雇用者数は平成 21 年から減少し、平成 24 年から増加しています。しかし、平成 26 年の雇用者数は 17,136 と平成 21 年 (17,360) から 1.3%減少しています。

平成 21 年と平成 26 年の間、緩やかな減少傾向の中、医療・福祉、サービス業の伸びが顕著であることが特徴です。

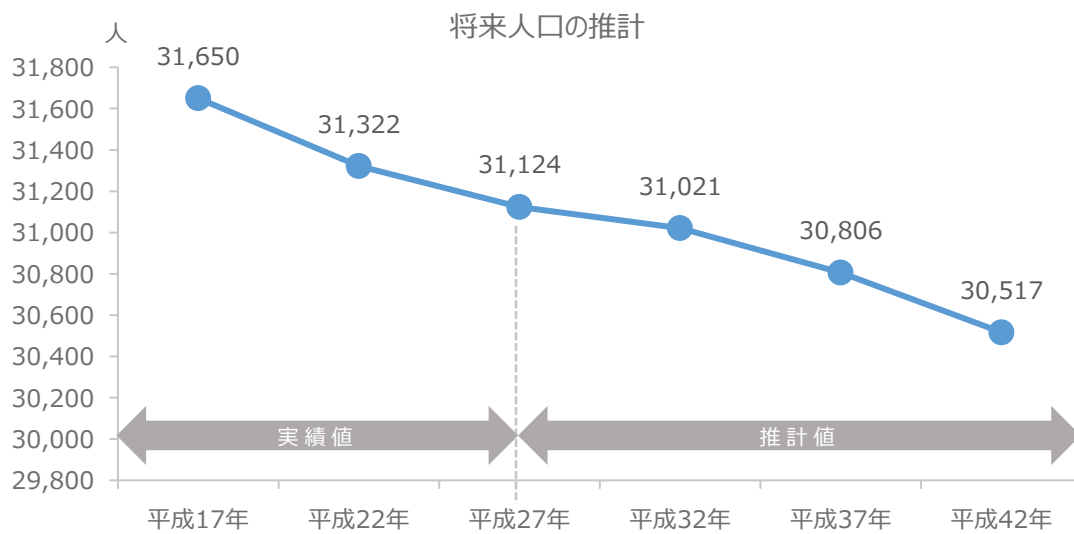
#### ○中央市雇用者数の推移

	平成 21 年 統計値/2009	平成 22 年 推計値/2010	平成 23 年 推計値/2011	平成 24 年 統計値/2012	平成 25 年 推計値/2013	平成 26 年 統計値/2014
農林漁業	121	119	116	114	153	192
鉱業	7	8	8	9	5	0
建設業	836	800	764	728	703	678
製造業	3,900	3,846	3,792	3,738	3,721	3,704
電気ガス熱供給水道業	0	0	0	0	6	12
情報通信業	82	81	79	78	84	90
運輸業	1,585	1,551	1,518	1,484	1,356	1,227
卸売・小売業	4,998	4,815	4,632	4,449	4,379	4,309
金融・保険業	127	134	141	148	135	121
不動産業	293	289	285	281	280	279
学術研究、専門・技術サービス業	173	182	191	200	207	214
飲食店・宿泊業	1,184	1,237	1,290	1,343	1,147	951
生活関連サービス業、娯楽業	551	495	440	384	394	404
医療・福祉	1,722	1,750	1,779	1,807	1,972	2,137
教育・学習支援業	959	937	916	894	1,094	1,293
複合サービス事業	102	94	86	78	144	210
その他サービス業	720	728	736	744	1,030	1,315
雇用者数合計	17,360	17,066	16,773	16,479	16,808	17,136

出典：経済センサス（H21、H24、H26 は統計値、その他の年度は推計値である）

#### 4. 将来人口の設定

本市の将来人口については、「中央市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」の中で市は様々な推計を行っています。市は様々な施策を実施することで、人口減少に歯止めをかけることとし、将来人口を設定しています。本計画では、人口ビジョンに準拠して計画人口を設定します。



出典：国勢調査（実績値）、「中央市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」（推計値）